

## 5 地方名調査結果

### (1) 甲虫類 (コウチュウ目)

#### 1) カブトムシ (コガネムシ科)

##### ① カブトムシ (総称又は雄)

ア 対象種

カブトムシ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 角から ツノカブト、ツノマタ
- ・ 発する音 ヒュウヒュウ
- ・ 牛糞等から現れる ウシグソメクリ、クソカブト、クソクイ、クソモグリ
- ・ 標準和名等 オオカブト、カブト、カブトムシ
- ・ その他 キク、キクムシ、ゲンジ、ゲンジカブト、テンカブト、テングカブト、ドネ、ドネカブト、ホンカブト

(※ 雌との区別 オン、オンカブト、オンタ)

エ 生息及び呼び名の状況

身近な里山のホソノキ (=コナラ)、タモノキ (=トネリコ)、河畔のカワヤナギ等で見かけられ、郡内全集落に生息した。堆肥や馬糞等から出てくることから汚いイメージがあり、当時の子ども達の捕獲対象ではなかったという。

本種の呼び名としては、「カブト」や「ツノマタ」をはじめ計19種を採録した。

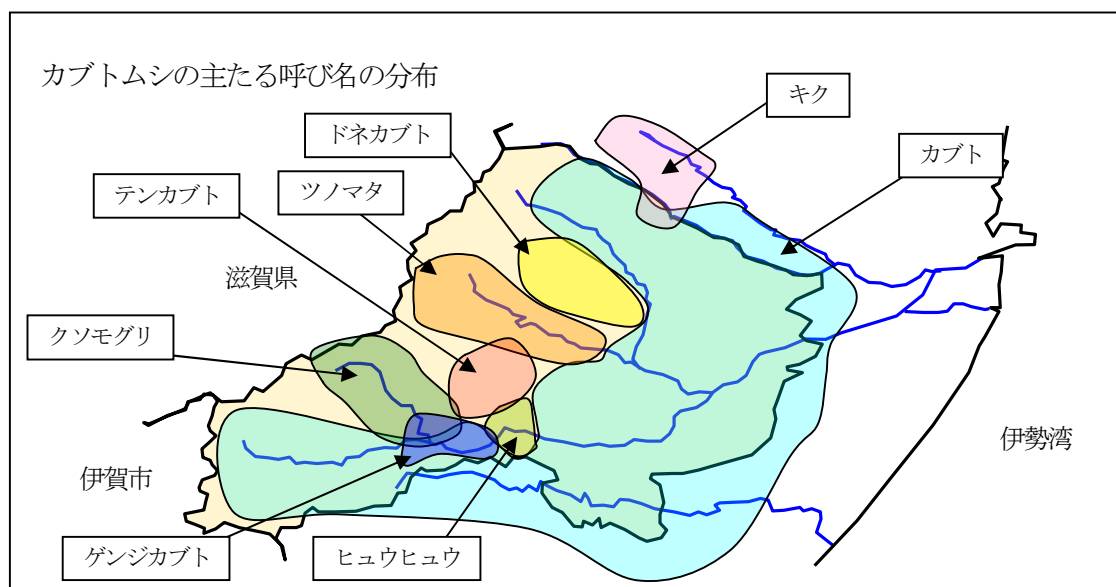
郡内の広い地域で「カブト」や「カブトムシ」と呼ばれたほか、野登地区を中心に「ツノマタ」、白川地区で「テンカブト」、庄内地区では「ドネカブト」等と呼ばれ、また、幼虫が馬糞等の中で成長し、そこから出てくることからの呼び名である「クソモグリ」、「ウシグソメクリ」等がみられた。

なお、隣接地域として調査を行った山内地区 (旧甲賀郡) では「サノマタ」を採録したが、野登地区の「ツノマタ」と類似することから、峠越え (安楽越え) の交流関係が伺われる。

オ その他

本種の呼び名に関して、当時前後に次のような変化があった可能性がある。

- ・ ヒュウヒュウ (カブトムシの総称又は雄 →カブトムシの雌) (神辺地区の一部)



## ② カブトムシ (雌)

### ア 採録した呼び名

- ・ 発する音 チュウチュウ、チュッチュ、ヒュウヒュウ
- ・ 牛糞等から現れる クソモグリ、ハバ、ハバカブト
- ・ におい クサ
- ・ その他 ドテ、ドンゴ

(※ 雄との区別 メン、メンカブト、メンタ)

### イ 呼び名の状況

雄と対照的に角がなく手で捕まえにくいカブトムシである。

本種 (雌) の呼び名としては、「ハバ」や「ドンゴ」をはじめ計9種を採録した。

深伊沢地区で「ドンゴ」と呼ばれたほか、その発する音から小岐須町では「チュウチュウ」や「チュッチュ」、神辺地区の一部では「ヒュウヒュウ」と呼ばれ、また、ほぼ全域で「ハバ」や「ハバカブト」が散在する形でみられた。

一方、角のある雄と区別し、郡内全域で雌を意味する「メン」、「メンタ」等とも一般的に呼ばれた。

なお、隣接地域として調査を行った山内地区 (旧甲賀郡) では「オバ」を採録した。



### ③ カブトムシ (幼虫)

#### ア 採録した呼び名

- ・ 堆肥等に潜っていること モグリ
- ・ その他 イモムシ、ガンゴージ、ジンド、ジンドウ、ジンドムシ、スクモ

※ 蛹 (サナギ) ガンゴージ、ジンド、ジンドウ

#### イ 生息及び呼び名の状況

堆肥や馬糞等の中で見かけられた白い大型の幼虫である。

本種 (幼虫) の呼び名としては、「ジンド」や「スクモ」をはじめ計7種を採録した。

郡内の広い地域で「ジンド」、「ジンドウ」又は「ジンドムシ」と呼ばれたほか、椿地区から深伊沢、庄内地区にかけては「スクモ」と呼ばれ、西庄内町北畑では「ガンゴージ」が主たる呼び名として使われた。

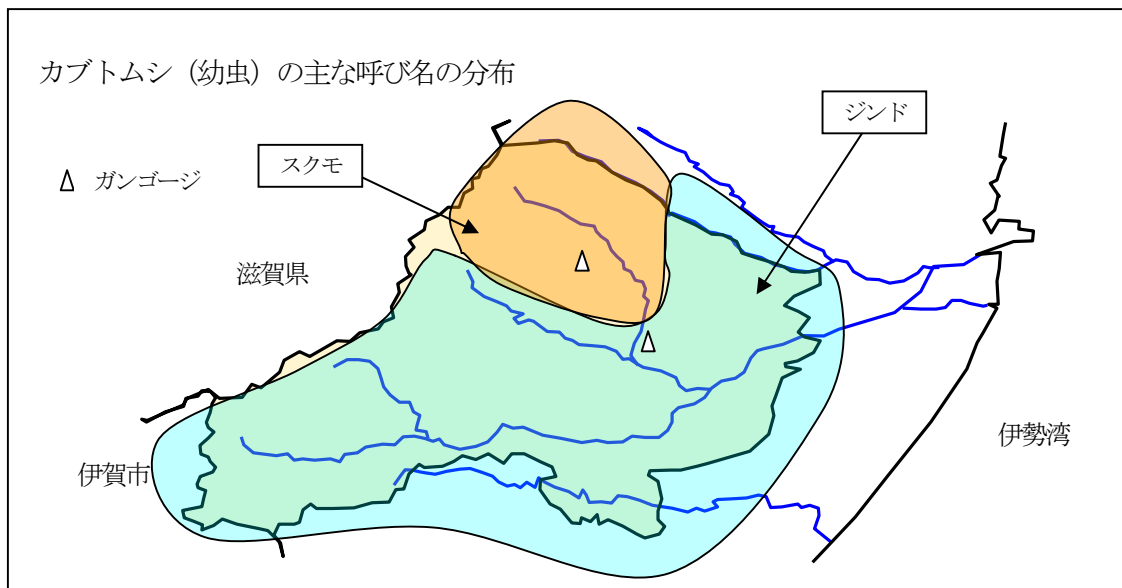
また、補足的な聴き取りにおいて、加太地区のほか、数集落で「イモムシ」を採録したが、当時、女性を中心とした一部の人々からそのように呼ばれていたようである。

なお、隣接地域として調査を行った山内地区 (旧甲賀郡) では「ガットムシ」を採録した。

#### ウ その他

本幼虫が「スクモ」と呼ばれる地域では、朽木等木の中で見かけられるクワガタムシ等の小型の幼虫が「ジンド」と呼ばれ、また、深伊沢地区ではさらに畑の土の中で見かけられるコガネムシ類の幼虫は「シクジ」とされ、大きさや見かけられる場所によって細かい呼び分けがみられた。

カブトムシの蛹 (サナギ) については、事前の聴き取りで呼び名がはっきりとせず調査対象としなかったが、一連の聴き取りの中で深伊沢地区の伊船町野田・新田及び深溝町において「ガンゴージ」を採録したほか、安坂山町安楽では幼虫と同様に「ジンド」、「ジンドウ」と呼ばれ、多くの集落で呼び名がないか、「ジンド」等幼虫の呼び名で併せて呼ばれたものとみられる。



## 2) クワガタムシ類 (クワガタムシ科)

### ① クワガタムシ類 (総称又は雄)

#### ア 対象種

コクワガタ、ヒラタクワガタ、ノコギリクワガタ、ミヤマクワガタ、オオクワガタ等

#### イ 生息情報

全集落

#### ウ 採録した呼び名

- ・ 挟むこと ハサミ、ハソミ、ハソミムシ、ハサミカブト、ハソミカブト
- ・ 木の根に隠れること クサカブリ
- ・ 体色 アカカブト、クロカブト
- ・ その他 カブト、ゲンジ、ツノカブト、テンカ  
(※ 雌との区別 オン、オンカブト、オンタ)



コクワガタ

#### エ 生息及び呼び名の状況

カブトムシと同様に身近な里山のホソノキ (=コナラ)、タモノキ (=トネリコ)、河畔のカワヤナギ、アカメ (=アカメガシワ) 等で見かけられ、郡内全集落に生息した。とりわけ山辺の地域では多様なクワガタムシ類がみられ、子ども達の捕獲対象となったという。

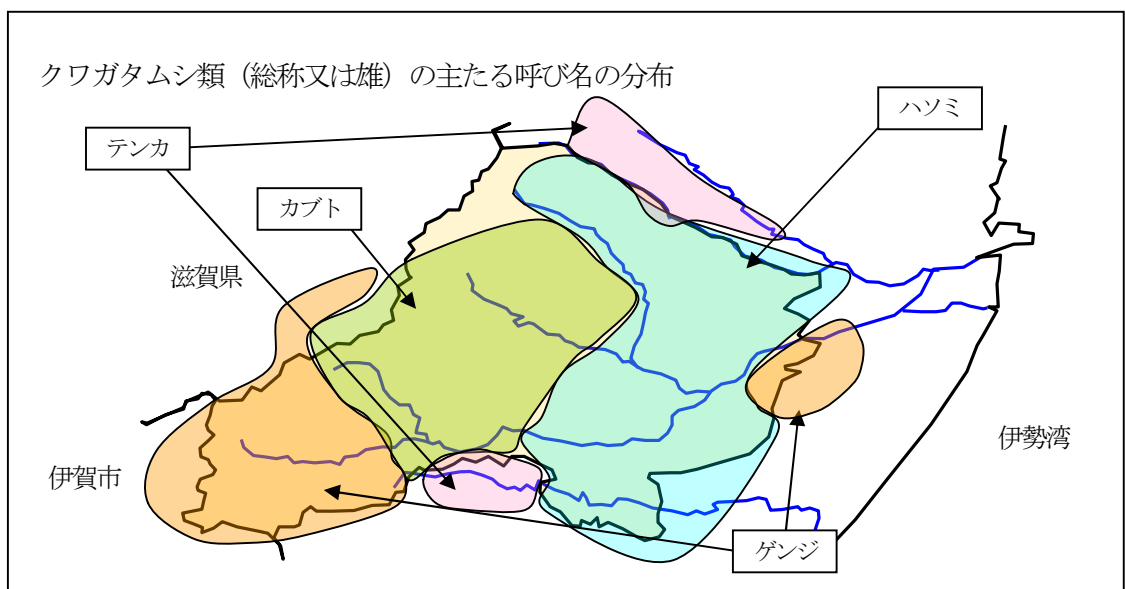
本類の呼び名としては、「ハソミ」や「ゲンジ」をはじめ計12種を採録した。

郡東部を中心に広い地域で、角で挟むことから「ハソミ」、「ハサミ」と呼ばれたほか、坂下地区、関町から庄内地区に至る山辺の地域では「カブト」と呼ばれた。

また、加太地区及び牧田地区では「ゲンジ」、関町古厩から明地区 (旧河芸郡) 及び水沢野田町から水沢地区 (旧三重郡) にかけては「テンカ」と呼ばれ、両呼び名が「ハソミ」及び「カブト」と呼ぶ地域を挟むように離れた場所にみられた。

#### オ その他

当時、山辺の集落では子ども達が大型個体を競って取り、尾の背の部分をかすることにより興奮させ、クワガタムシ同士で戦いをさせて遊んだという。





## ② クワガタムシ類 (雌)

### ア 採録した呼び名

- ウシ、コッテ、ジジ、ジジカブト、ジジコ、ドネ、ナタ、ネコ、ホシ、マン

(※ 雄との区別 メン、メンカブト、メンタ)

### イ 呼び名の状況

雄と比べ、非常に小さな角を持つ。

本類(雌)の呼び名としては、「マン」や「ジジ」をはじめ計10種を採録した。

椿地区では「マン」と呼ばれたほか、井田川地区では「ナタ」、深伊沢地区を中心に「ウシ」、坂下地区では「ネコ」、関町地区から神辺地区にかけては「ジジ」等と呼ばれた。また、「ホシ」、「ドネ」等と呼ぶ集落も一部でみられた。

一方、角が大きい雄と区別し、郡内全域で雌を意味する「メン」、「メンタ」等とも一般的に呼ばれた。

なお、隣接地域として調査を行った山内地区(旧甲賀郡)では「ババ」を採録した。



## ③ クワガタムシ類 (幼虫)

### ア 採録した呼び名

- キクイムシ、キークイ、キークイムシ、シンクイムシ、ジンド、ジンドウ、ジンドムシ

### イ 生息及び呼び名の状況

カブトムシの幼虫と異なり、里山のコナラや朽ち木等の中で成長する。

本類(幼虫)は目にする機会はほとんどなく、本調査の対象としなかったが、一連の聴き取りの中で「ジンド」や「キークイムシ」をはじめ計7種を採録した。

椿地区から深伊沢、庄内地区にかけては、カブトムシの幼虫が「スクモ」と呼ばれるのに対し、朽木等の中で見られるこうした幼虫は「ジンド」と呼ばれた。また、木の中心部を食べて穴を開けていくことから「キクイムシ」、「キークイムシ」という呼び名もみられた。



### 3) ノコギリクワガタ (クワガタムシ科)

本種については、角の形状により主として原歯型と長歯型とに分けられるが、両型の呼び名が異なったことから、区別して調査を行った。

#### ア 対象種

ノコギリクワガタ

#### イ 生息情報

ほぼ全集落

#### ウ 採録した呼び名

- a) 原歯型 ノコ、ノコギリ、ノコギリカブト、ノコギリガマ、ノコギリショウ、ノコギリバソミ
- b) 長歯型 ウシ、ウシカブト、カモ、ガモ、クツワ、クツワカブト、ジジゴロシ、ジジマ、ツノマ加里、テンカ、テンカク、テンカクバソミ、ナタ
- c) 赤色 ウマ、ウマカブト



原歯型

#### エ 生息及び呼び名の状況

身近な里山や河畔林等で見かけられ、ほぼ郡内全集落に生息した。

原歯型は郡内の全集落で呼び名を採録したが、長歯型は生息数が原歯型に比べて少なかったようで、平野部を中心に呼び名のない集落が少なからずみられた。



長歯型

#### a) 原歯型

本型の呼び名としては、「ノコギリ」や「ノコギリガマ」をはじめ計6種を採録した。

角がノコギリ状であることから郡内のほぼ全域で「ノコギリ」と共通した呼び名で呼ばれたほか、南小松町で「ノコギリガマ」、津賀町では「ノコギリショウ」とも呼ばれた。

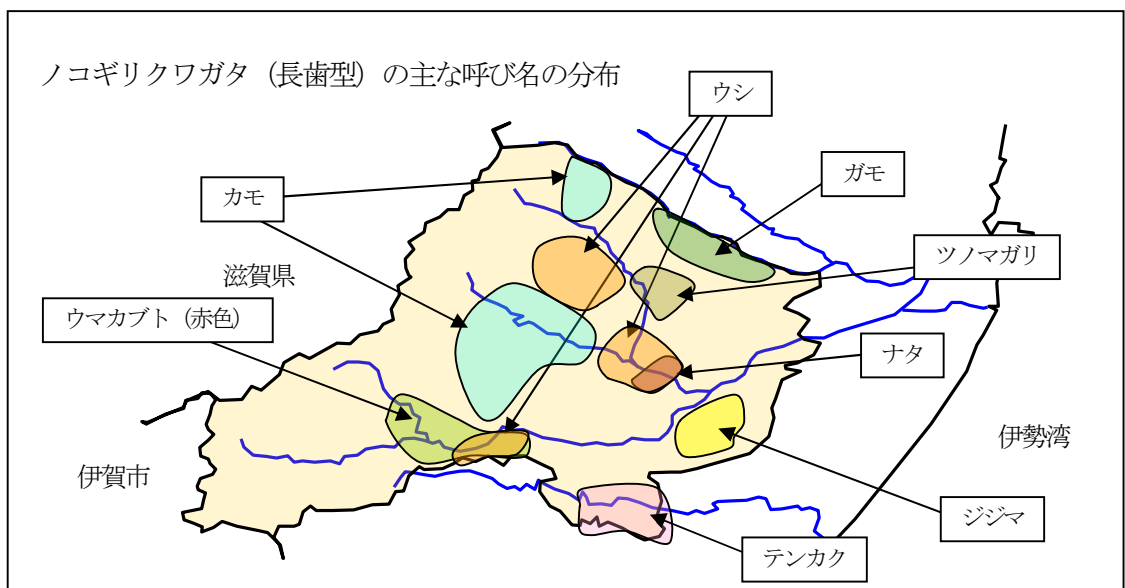
#### b) 長歯型

本型の呼び名としては、「カモ」や「ウシ」をはじめ計13種を採録した。

椿地区とともに白川地区から野登地区にかけては「カモ」と呼ばれたほか、昼生地区は「テンカク」、国府地区は「ジジマ」、関町地区や川崎、西庄内地区では「ウシ」等、地域により多様な呼び名がみられた。

#### c) 赤色

関町地区を中心に赤みを帯びた体色の個体が「ウマ」、「ウマカブト」と呼ばれた。



#### 4) ミヤマクワガタ (クワガタムシ科)

##### ア 対象種

ミヤマクワガタ

##### イ 生息情報

山林が広がった地域の集落

##### ウ 採録した呼び名

- ・ 耳状突起 カタ、カタテンカ、カマス、チンダイ、チンダイカブト、テヌグイ、テヌグイカブリ、テング、フンドシカブリ、ベントウ、ミミ、ヨロイカブト
- ・ その他 ゲンジ、ゲンジカブト



##### エ 生息及び呼び名の状況

頭部に冠状の突起（「耳状突起」）を持つ特徴的なクワガタムシである。

ミヤマ（＝深山）という名のとおりに主として山林に生息するが、当時は郡内に山林が広がっていたことから広い範囲で見かけられ、山辺の集落を中心に多くの集落に生息した。

本種の呼び名としては、「テヌグイカブリ」や「チンダイカブト」をはじめ計14種を採録した。

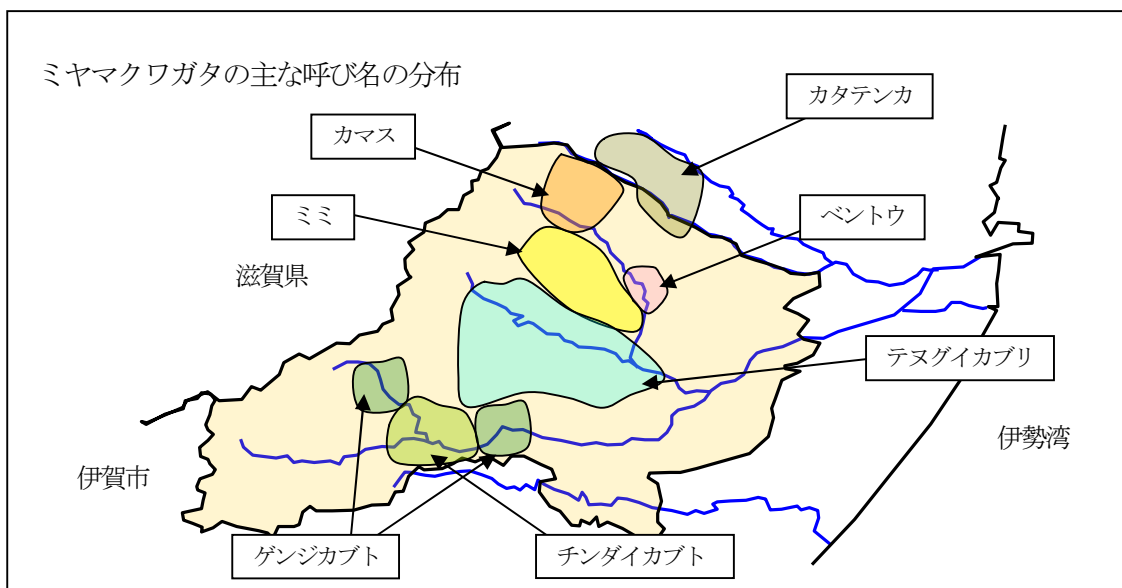
頭部にある耳状突起の捉え方から地域により多様な呼び名がみられ、白川地区から野登、川崎地区にかけては農婦が頭に手拭いをかぶったように見えるとされたことから「テヌグイカブリ」と呼ばれたほか、庄内地区では耳と捉えられ「ミミ」、伊船町・長沢町では弁当箱に見えることされ「ベントウ」、椿地区では「カマス」、水沢野田町では水沢地区（旧三重郡）の影響から「カタテンカ」とも呼ばれた。

また、関町地区を中心に「チンダイカブト」と呼ばれ、関町坂下・沓掛では「ゲンジカブト」神辺地区では「ゲンジカブト」や「ヨロイカブト」の呼び名がみられた。

なお、隣接地域として調査を行った明地区（旧河芸郡）では「カサカブリ」、山内地区（旧甲賀郡）では「ヘイタイ」を採録した。

##### オ その他

特徴のある本種を「ゲンジカブト」と呼ぶことに対し、それ以外のクワガタムシ類を「ヘイケカブト」と呼ぶ集落がみられた。



## 5) 小型のクワガタムシ類 (クワガタムシ科)

### ア 対象種

コクワガタ、ヒラタクワガタ等

### イ 生息情報

全集落

### ウ 採録した呼び名

- ・ 平たいこと センテ、センベ、センペ
- ・ 戦いに弱いこと ヨワ
- ・ その他 ウシ、ウシカブト、カマ、コカブト、ナタ、ハサミ、ハソミ

### エ 生息及び呼び名の状況

平たい形状で素早く木の割れ目等に逃げ込むクワガタムシである。

身近な里山や河畔林等で見かけられ、郡内全集落に生息した。

対象種としては、生息数が多く最もよく見かけられたコクワガタのほか、小型のヒラタクワガタ等があげられる。

本類の呼び名としては、「センペ」や「ナタ」をはじめ計11種を採録した。

西庄内地区から椿地区にかけては「ナタ」と呼ばれたほか、庄野地区から高津瀬地区にかけては「カマ」、白川地区から野登地区を中心に広い地域で、平たい形状を意味する「センペ」等がみられた。また、坂下地区から関町地区にかけては角の小さい小型のクワガタムシとして「ウシ」を採録したが、コクワガタではないようで種ははっきりとしない。

一方、多様なクワガタムシ類が捕れた山辺の集落では、子ども達がそれらを戦わせて遊び、大型で戦いに強い個体を「ツヨ」と呼んだのに対し、こうした小型で弱い個体を「ヨワ」と呼ぶ場合がみられた。

なお、本類は小型で最も個体数が多かったことから、多くの集落で「ハソミ」等クワガタムシ類の総称で呼ばれ、他と区別した呼び名がない集落も多くみられた。

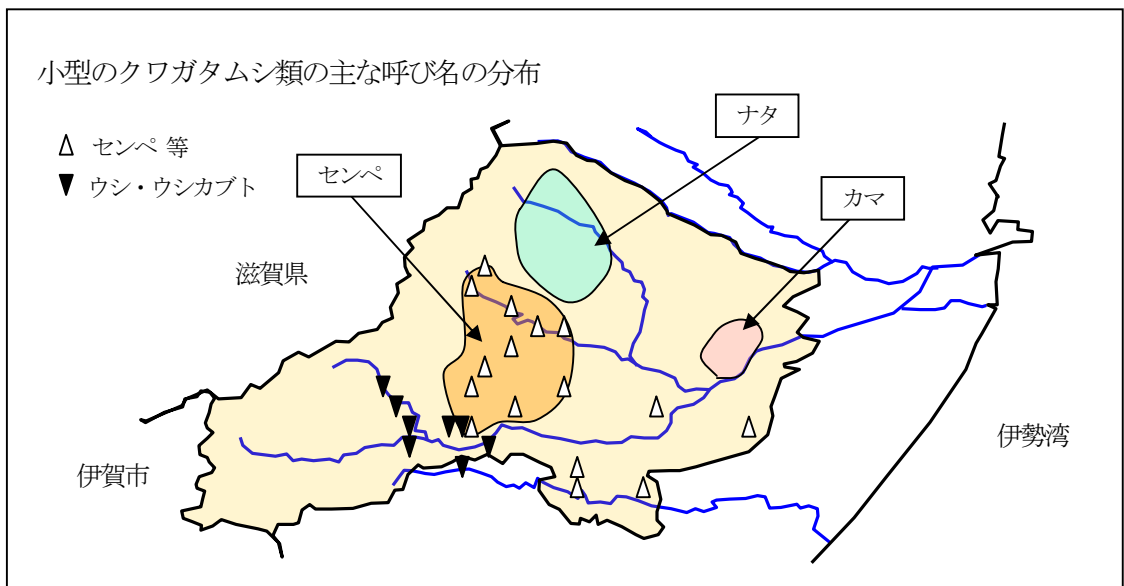
### オ その他

本類として採録した呼び名は、種別、雌の呼び名である可能性等を含め、はっきりとしない面が一部に残る。

なお、本類は越冬することから、冬にコナラやカワナヤギの木を切り出すと中から成虫が出てくることがある。



コクワガタ





## 6) 大型のクワガタムシ類 (クワガタムシ科)

### ア 対象種

オオクワガタ、ヒラタクワガタ等

### イ 生息情報

山林が広がった地域の集落

### ウ 採録した呼び名

- ・ 戦いに強いこと ツヨ
- ・ その他 オオカブト、ナタ、ヒャク、ヒャーク、ヒャクカブト

### エ 生息及び呼び名の状況

身近な里山等の太い木や朽木で見かけられ、当時、郡内には山林が広く分布していたことから、広い範囲で生息していたようであるが、こうした大型個体は少なかったという。

対象種としては、オオクワガタとヒラタクワガタの2種があげられる。

本類の呼び名としては、「ヒャク」や「ナタ」をはじめ計6種を採録した。

白川地区から野登地区を中心として「ヒャク」と呼ばれたほか、庄野地区及び高津瀬地区、太森町岩森、太田、東庄内町では「ナタ」と呼ばれた。

当時、山辺の集落の子ども達はこうした大型個体を探して学校などへ持ち寄り戦わせて遊んだようで、集落によっては戦いに強い大型の個体は「ツヨ」とも呼ばれた。

なお、ヒラタクワガタの小型個体は平たい体つきからコクワガタとともに「センペ」等と呼ばれたものとみられる。

### オ その他

オオクワガタについては、現在、一部の地域を除きほとんど見かけることがないことから、一部の集落で実物確認を併用するとともに、呼び名として「オオクワガタ」世代である50~60歳前後の世代からの生息・捕獲状況に関する補足的な聞き取り結果を踏まえまとめた。

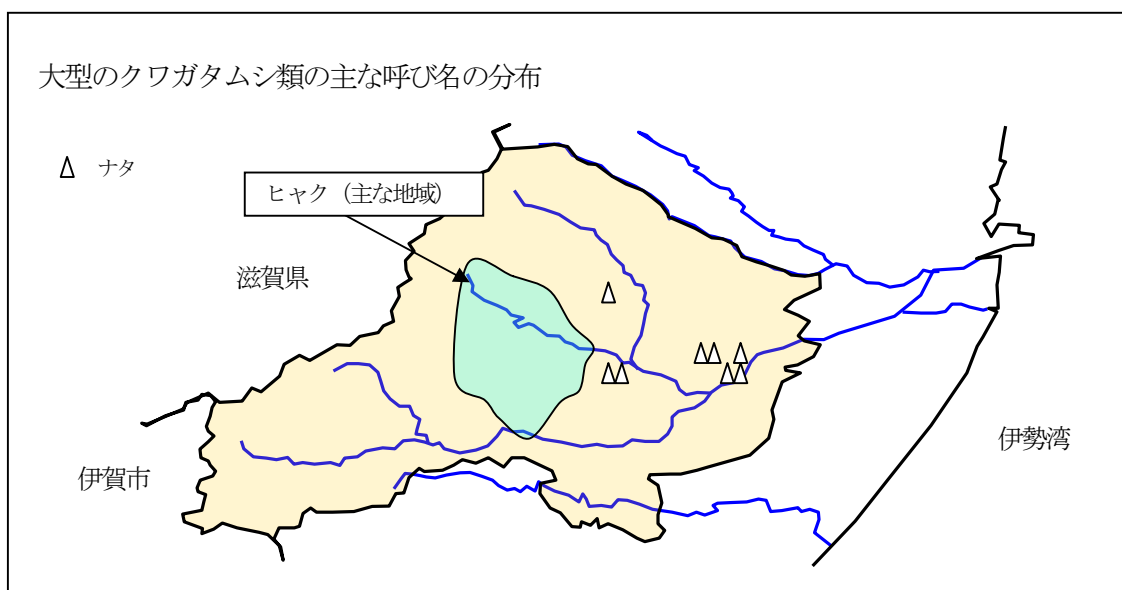
なお、調査の中で、大型個体は2種あるとし、両種の違いを説明する高齢者もみられた。



オオクワガタ



ヒラタクワガタ



## 7) コガネムシ類 (コガネムシ科)

### ア 対象種

コガネムシ、カナブン、ハナムグリ、ドウガネ  
ブイブイ等

### イ 生息情報

全集落

### ウ 採録した呼び名

#### a) 総称

- ・ 金属色 オカネ、オカネムシ、カネ、カネムシ、コガネ、コガネムシ
- ・ 翅音 ブンド、ブンブ、ブンブン、ブンブンムシ
- ・ 金属色+翅音 オカネブー、オカネブブ、オカネブン、オカネブンブ、オカネブンブン、カネブブ、カネブン、カネブンブ、カネブンブン
- ・ その他 タガネ、タガネムシ、ドンガネ

#### b) その他

- ・ 大型のコガネムシ オオカネブブ、トノサンコガネ
- ・ 小型のコガネムシ ヒメコガネ
- ・ 藤の木にいるコガネムシ (=コフキコガネ) フジブンブ
- ・ 幼虫 シクジ、ジンド、ジンドウ、ジンドムシ



コガネムシ

### エ 生息及び呼び名の状況

カブトムシ等と同様に身近な里山や河畔林等で見かけられ、郡内全集落に生息した。

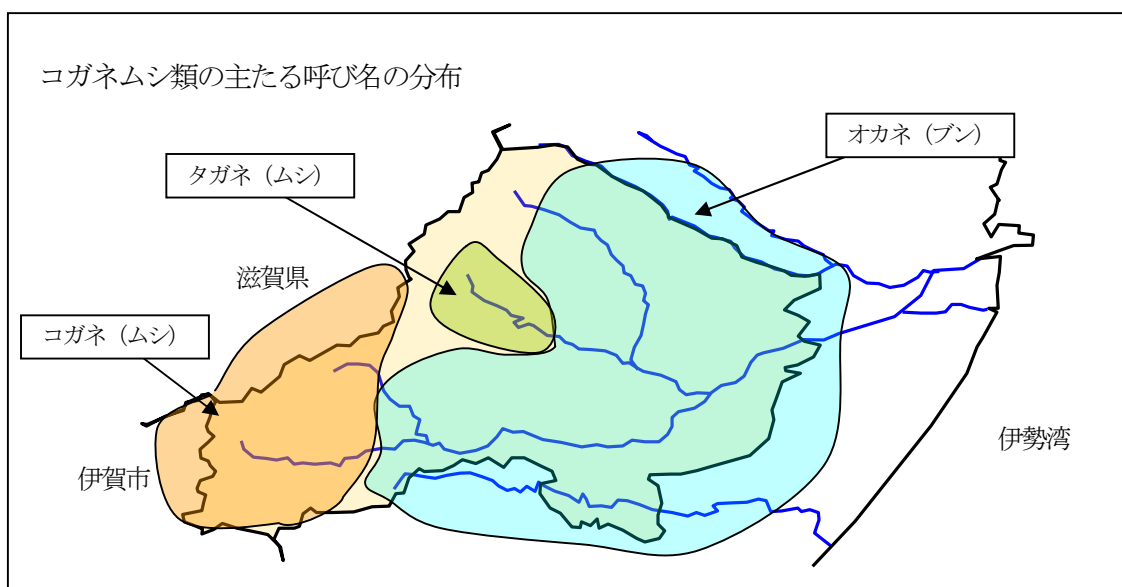
本類の呼び名としては、「オカネ」や「タガネ」をはじめ計22種を採録したほか、大小の違い等により「オオカネブブ」や「ヒメコガネ」をはじめ計4種を採録した。

郡内の広い地域で「オカネ」等金属色に輝くことからの呼び名や「ブンブン」等翅音に関係した呼び名で呼ばれたほか、加太地区では標準和名である「コガネムシ」、野登地区とその周辺では「タガネ」、「タガネムシ」と呼ばれた。

なお、畑の土中等で見かけられる幼虫については、カブトムシの幼虫とともに広く「ジンド」等と呼ばれたようであるが、深伊沢地区ではそれと区別し「シクジ」と呼ばれた。

### オ その他

聴き取りから、本類に関して「コガネムシがよくわくと冬に雪が多い」と言ったという話を採録した。



## 8) ドウガネブイブイ (コガネムシ科)

ア 対象種

ドウガネブイブイ

イ 生息情報

全集落

ウ 採録した呼び名

- ・ 糞 クソタレ、クソタレムシ、クソムシ
- ・ 糞+翅音 クソタレブブ、クソタレブンブ、クソタレブンブン、クソブー、クソブブ、クソブン、クソブンブ、クソブンブン

エ 生息及び呼び名の状況

コガネムシによく似た昆虫で、栗等の木やその葉上で見かけられ、郡内全集落に生息した。

本種の呼び名としては、「クソタレ」や「クソブン」をはじめ計11種を採録した。

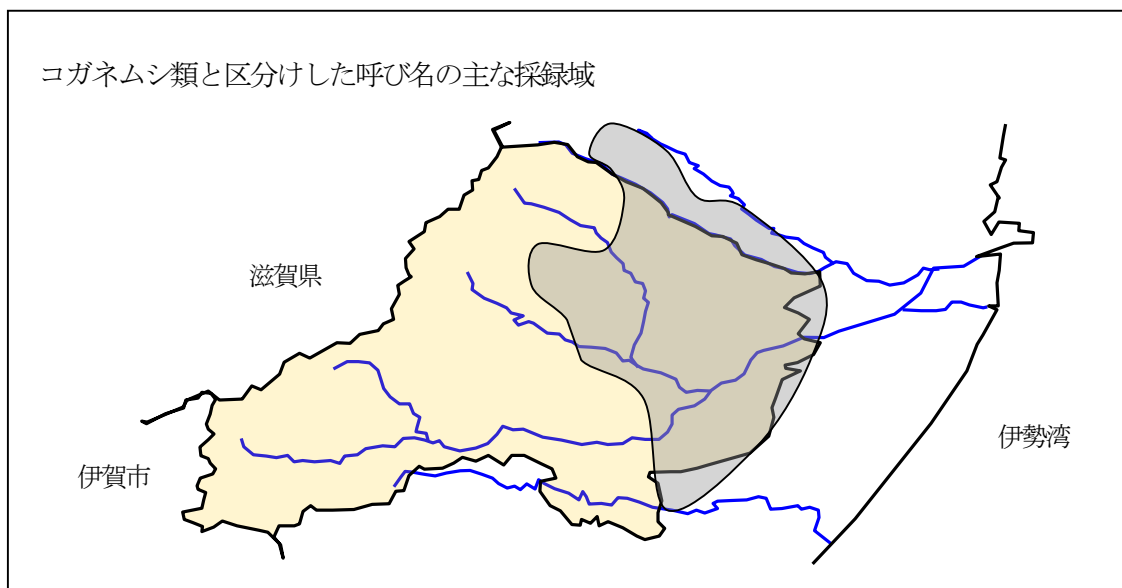
ドウガネブイブイは捕獲時に糞をすることから、他のコガネムシ類と区別し「クソタレ」や「クソブン」という呼び名が郡の東部を中心としてみられた。

一方、形態がよく似たコガネムシと呼び名上の区別がない集落も多くみられ、ともに「オカネムシ」や「オカネブンブ」などと呼ばれた。

なお、アオドウガネ等本種と同様な生態のコガネムシ類は、本種とともに併せて同じ呼び名で呼ばれたものとみられる。



ドウガネブイブイ



## 9) カミキリムシ類 (カミキリムシ科)

### ア 対象種

クワカミキリ、シロスジカミキリ、ゴマダラカミキリ等

### イ 生息情報 全集落

### ウ 採録した呼び名

- ・ 標準和名 カミキリ、カミキリムシ
- ・ 切ること イトキリ、イトキリムシ、キーキリ、キーキリムシ、クワキリ、クワキリムシ、ケーキリ、ケーキリムシ
- ・ 発する音 ギーギー、ギーギームシ、ギジ、ギジギジ、キュウキュウ、キュウキュウムシ、ギュウギュウ、ギュウギュウムシ、キリキリ、キリキリムシ、ギリギリ、ギリギリムシ
- ・ その他 ガリムシ



ゴマダラカミキリ

### エ 生息及び呼び名の状況

カブトムシやクワガタムシと同様に身近な里山や河畔林のほか、当時盛んであり養蚕用に植えられた桑の木などで身近に見かけられたという。

多くの種類がみられる昆虫で郡内全集落に生息した。

本類の呼び名としては、「カミキリ」や「クワキリ」をはじめ計23種を採録した。

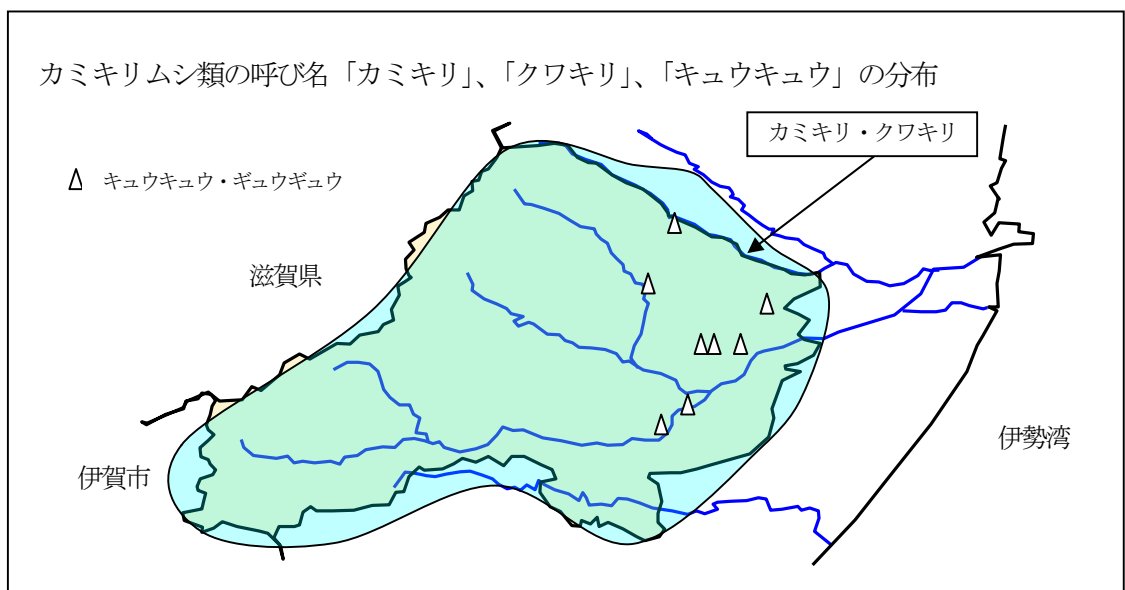
当時から郡内全域で標準和名である「カミキリ(ムシ)」と呼ばれたほか、桑などの木を切ることから「クワキリ」や「キーキリ」、「ケーキリ」等と呼ばれた。また、郡東部を中心に「キュウキュウ」、「ギジ」等発する音からの呼び名がみられた。

その他、「イトキリ」が集落数は少ないが広い地域から採録したことから、当時は一般的ではないものの郡内全域で使われた呼び名であったとみられる。

なお、隣接地域として調査を行った芸濃町楠原(旧河芸郡)及び木田町(旧河芸郡)では「テンギユウ」を採録した。

### オ その他

聴き取りから、本類に関して「カミキリムシは害虫として捕まえ、頭を取り一定数持っていくとお金がもらえた」という話を採録した。





## 10) ジョウカイボン類 (ジョウカイボン科)

### ア 対象種

ジョウカイボン、クロジョウカイ、マルムネ  
ジョウカイ等

### イ 生息情報

全集落

### ウ 採録した呼び名

- ・ ホタルに似た形状 オバ、オバサン、ホタルノオバ、ホタルノオバサン  
(※ ホータルノオバサン、ホッタロノオバサン、ホータロノオバサン)
- ・ その他 オバコ、オーバコ、カンコ、カンコムシ、カンコーバイ、キリムシ、キンコーバイ、ギンタン、ババ



ジョウカイボン

### エ 生息及び呼び名の状況

身近な里山等で見かけられる一般的な昆虫であり、郡内全集落に生息した。

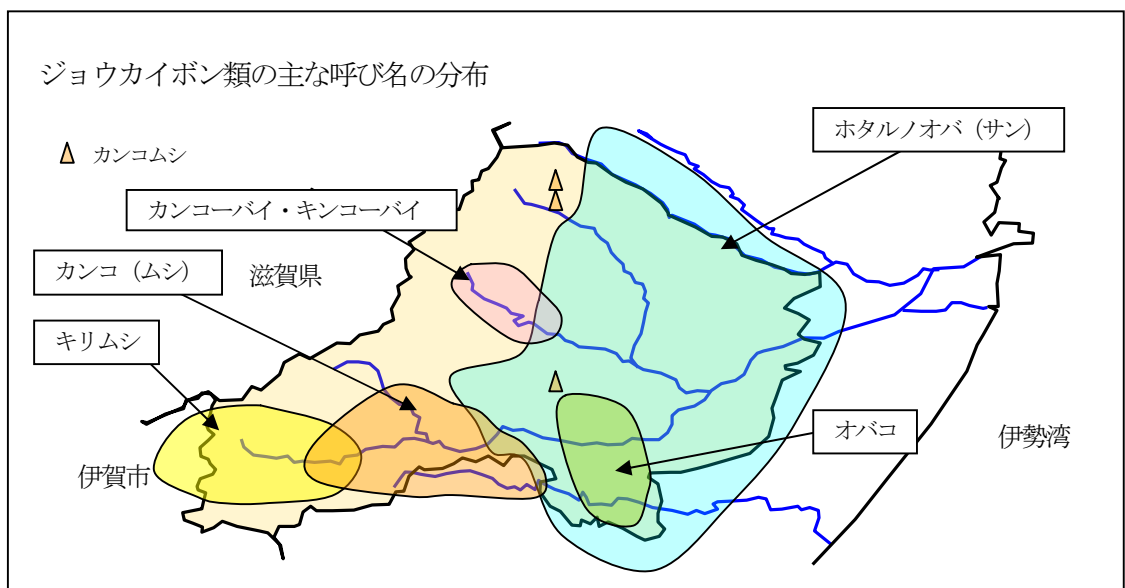
対象種としては、ジョウカイボン、クロジョウカイ等があげられる。

本類の呼び名としては、「ホタルノオバサン」や「カンコムシ」をはじめ計13種を採録した。

郡内の広い地域でホタルに似た虫として「ホタルノオバ」、「ホタルノオバサン」と呼ばれたほか、野登地区では「カンコーバイ」、野村・南野町から昼生地区にかけて「オバコ」、加太地区から関町、神辺地区、隣接地域として調査を行った明地区(旧河芸郡)にかけては「カンコムシ」と呼ばれ、また、柘植町(旧阿山郡)から加太地区では「キリムシ」がみられた。

### オ その他

「ホタルノオバサン」については、ホタル自体が郡内で「ホータロ」、「ホータル」、「ホッタロ」等と地域によって少しずつ異なる呼び名で呼ばれていたことから、正確に捉えれば、そうした呼び名とともに呼ばれていたと考えられるが、ここでは「ホタルノオバサン」として表記した。



## 11) コメツキムシ類 (コメツキムシ科)

### ア 対象種

ウバタマコメツキ、クシコメツキ、サビキコ  
リ等

### イ 生息情報

全集落

### ウ 採録した呼び名

- ・ 動き クビフリ、コメツキ、コメツキムシ、  
コメツキブンブ、ペッタンコ

### エ 生息及び呼び名の状況

身近な里山等で見かけられる一般的な昆虫  
であり、郡内全集落に生息した。

対象種としては、ウバタマコメツキ、クシコ  
メツキ等があげられる。

本類の呼び名としては、「コメツキ」や「クビフリ」をはじめ計5種を採録した。

体を押さえると頭胸部を米をつくように繰り返し動かすことから、郡内全域で「コメツキ」、  
「コメツキムシ」と呼ばれた。

### オ その他

似た呼び名の昆虫としてショウリョウバッタがあり、長い後ろ足を持つと同様な動きをする  
ことから「コメツキバッタ」と呼ばれたようである。



ウバタマコメツキ

## 12) その他

調査対象としなかったが、本調査の中で甲虫類の呼び名として次のものを併せて採録した。

### ① ヤマトタマムシ (タマムシ科)

#### ア 対象種

ヤマトタマムシ

#### イ 採録した呼び名

ギンギンムシ

#### ウ 呼び名の状況等

「ギンギンムシ」を下加太で採録した。